

常葉学園だより

部院
本学園
常葉学園大学・大学
常浜大・大学
常葉常学園・短期大学
常葉高等學校・中学校
常葉学園橘高等学校・中学校
常葉学園菊川高等学校・中学校
常葉学園大学教育学部附属橘小学校
常葉短大附属どことは幼稚園
常葉短大附属ちばな幼稚園
常葉学園医療専門学校
常葉学園静岡リハビリテーション専門学校

第194号



常葉学園大学 学長
角替弘志

創立 30周年 を迎えて

校地・校舎の場所は設立以来変わっていますが、平成15年の静岡市と清水市の合併により、本館の真ん中より少し東に寄った所を南北に走っていた静岡市と清水市の境界線は消えました。さらに、平成17年の政令指定都市への移行に伴う区制の導入を機会に、本学の近辺では葵区と清水区の境がございます。

本学は「光輝ある平和な文化国家を建てるためには、必ず教育の力にまたなければならない」とする常葉学園の創立者木宮泰彦先生のゆるぎなき信念に基づき、「人を育てる教育者の教育」から始まりました。この世において「人こそが財(だから)」です。教育学部はもとより、外国语学部・造形学部においても「人財を育てることが根幹です。「常葉」は「霜雪に耐えてつねに青々とした葉を繁らせ、純白で香りの高い花を咲かせ、豊かな黄金の実を結ぶ樹」を願わしています。常葉の園において人財を育む「教育の常葉」として一層の発展を期して次の3年に挑んで参ります。

創立30周年を迎えた平成22年5月1日現在の本学の学生数は大学院を含めて2192人です。開学した昭和55年に入学した学生は139人であり、4年生までの学生が揃った、いわゆる完成年度の昭和58年5月1日の学生数は508人でしたので創設期に比べ、学生数は4・3倍になっています。

当初、教育学部初等教育課程のみの単科大学として発足しましたが、昭和59年には外国语学部英米語学科・スペイン語学科が設置され、平成に入り、平成10年には教育学部に生涯学習学科、平成14年には常葉学園短期大学美術デザイン科を母体に造形学部造形学科、平成16年には教育学部に心理教育学科が設けられ、同時に外国语学部スペイン語学科がグローバルコミュニケーション学科に改編されました。更に、大学院に関しては、平成8年には社会人も対象とした昼夜開講制の大学院国際言語文化研究科(修士課程)が静岡駅近くのサテライトキャンパスを中心とする教場として開設され、平成20年には我が国で最初に設けられた全国で19の教職大学院の一校として大学院初等教育高度実践研究科(専門職学位課程)が、静岡県で最初の、また首都圏以外では唯一の私立の教職大学院として開設されました。現在は、3学部(1課程、5学科)、2研究科の組織編制の下に教育・研究活動を展開しています。

創立30周年を迎えた平成22年5月1日現在の本学の学生数は大学院を含めて2192人です。開学した昭和55年に入学した学生は139人であり、4年生までの学生が揃った、いわゆる完成年度の昭和58年5月1日の学生数は508人でしたので創設期に比べ、学生数は4・3倍になっています。

当初、教育学部初等教育課程のみの単科大学として発足しましたが、昭和59年には外国语学部英米語学科・スペイン語学科が設置され、平成に入り、平成10年には教育学部に生涯学習学科、平成14年には常葉学園短期大学美術デザイン科を母体に造形学部造形学科、平成16年には教育学部に心理教育学科が設けられ、同時に外国语学部スペイン語学科がグローバルコミュニケーション学科に改編されました。更に、大学院に関しては、平成8年には社会人も対象とした昼夜開講制の大学院国際言語文化研究科(修士課程)が静岡駅近くのサテライトキャンパスを中心とする教場として開設され、平成20年には我が国で最初に設けられた全国で19の教職大学院の一校として大学院初等教育高度実践研究科(専門職学位課程)が、静岡県で最初の、また首都圏以外では唯一の私立の教職大学院として開設されました。現在は、3学部(1課程、5学科)、2研究科の組織編制の下に教育・研究活動を展開しています。

常葉橋VS常葉菊川

決勝史上初の常葉対決



兄弟校対決 先攻は常葉菊川

7月27日、甲子園の切符をかけた戦い「全国高校野球選手権静岡県大会決勝(常葉橋対常葉菊川)」が行われました。今年は草薙球場が改修工事のため使用できず、決勝戦は浜松球場で行われ、ほぼ満席となった内野席からの視線や声援が集まる中、午前1時より試合が開始されました。決勝史上初の兄弟校対決となった今試合は、学園関係者にとって悲願であり、感慨もひとしおでした。

先制したのは常葉菊川。泉地選手の左中間ツーベースヒットで2点を挙げ、3回にも3点目を奪いました。常葉橋は2回、3回と1点ずつを返しましたが、序盤は常葉菊川が優位な試合展開でした。

1点を追う常葉橋は6回、小岱選手のツーベースヒットで逆転に成功し、この回一挙3点を奪ってスタンドも大いに盛り上りました。その後は追加点を許さず、常葉橋が3-5で常葉対決を制し、昨年に引き続き2年連続2回目の甲子園出場を決めました。夏の大会連覇は史上5校目の快挙です。

学園関係者はもちろん、静岡県民にとって大いに記憶に残った一戦となりました。

高校野球静岡県大会



甲子園行きが決まり抱き合って喜ぶ選手たち



大注目の常葉対決は常葉橋が勝利



深紅の優勝旗を手にする牛場主将

野球部2年連続甲子園出場

橋高



三塁を蹴ってホームを目指す大畠選手

常葉橋野球部が2年連続2回目の甲子園出場を果たしました。

昨年は3回戦まで進んだ本校野球部、「今年こそは全国優勝」という思いを胸に、8月7日甲子園球場へ向かいました。

1回戦は滋賀県代表の北大津高校。打率4割以上の打者が何名もいる強敵でした。試合が始まつて1回の表に先制点を許してしまった後も追加点をあげられました。8回の裏にキャブテンの牛場選手がホームランを放ち、点差わずか4点まで追いつきましたが残念ながら常葉橋は初戦で敗退してしまいました。

常葉橋を応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

(報道同好会)



甲子園練習で気迫をこめて駆け出す選手たち



今大会は本塁打1本を含む7本のヒットを放ちました



大応援団をまとめあげる統制部長



常葉菊川の吹奏楽部員も応援に駆けつけてくれました



甲子園での応援に気合いがこもります

常葉学園大学創立30周年記念

7月17日(土)から21日(水)まで静岡・グランシップ6階の展示ギャラリーにおいて「Art&Design展」が開催されました。出品作品は造形学部卒業生、教員、その他の関係者と、友好提携を結んでいる韓国・済州大学校の教員などが制作したもので、そのタイトル通りアートとデザインの作品です。展示ギャラリーには学生はもとより美術やデザインに関心のある人々が大勢見に来てくれました。いろいろな作品が見られて楽しめたという声が聞こえました。卒業生も子供を連れてきて作品に親しんでいました。済州大学校からは4人の先生が展示とパネルトークのために来てくれました。

作品を制作するだけでなく、展示作業を教員と学生が一緒になって行うことは、新たな教育活動の一つとして大きな成果が上がったと思われました。

造形学部 Arts&Design展



常葉大

展示会ポスター

Arts & Design 展

創立30周年関連事業

大学全体		記念式典・記念公演	平成22年10月23日(土)14時開式	静岡市民文化会館 大ホール
教育学部	初等教育課程	学内学会	平成22年12月4日(土)15時開始(予定)	常葉学園大学内
	生涯学習学科	学内学会	平成22年12月4日(土)13時開始(予定)	常葉学園大学教育学部付属橋小学校講堂
	心理教育学科	学内学会	平成22年12月4日(土)14時30分開始(予定)	常葉学園大学内
外国語学部	記念講演「バックン・マックンの笑って覚える英語」	記念講演「バックン・マックンの笑って覚える英語」	平成22年10月14日(木)16時30分開演	常葉学園大学たちはなホール
スペイン・ラテンアメリカ専攻 (旧スペイン語学科)	記念行事「スペイン・フォーラム」	記念行事「スペイン・フォーラム」	平成22年10月2日(土)14時開演	アイセル21 1Fホール

キャンパス見学会開催

6月から9月にかけて、4回のキャンパス見学会を実施しました。開催日には、大勢の参加者が在校生・卒業生の話に一生懸命耳を傾けてくれました。

この参加者の中からたくさんの方が本校を希望し、将来、理学療法士への道へと進んでもらいたいと思います。



静岡リハ専 健康栄養学科が運動部の食事指導

高大連携 浜松工業高校で鈴木治教授が講義



浜松大



陸上部食事指導

夏休み中の5日間、浜松工業高等学校の要請を受け、ビジネスデザイン学部鈴木治教授が、同校1年生を対象に「基本情報技術試験・ITパスポート試験対策講座」を実施しました。これは、「地域から優秀な情報処理技術者を育てよう」と両校が連携して行っている講座で、今年で5回目になります。過去の受講生のなかには高度な試験に合格したものが多数いらっしゃるようです。

8月17日～21日、健康栄養学科3年生の5名が、陸上部合宿の昼食提供を行いました。昼食を提供することで自分に必要な量と食べ物の種類に興味を持ってもらいました。今回は、競技特性を考慮した「スポーツ栄養」ではなく、1日3食自分に必要な栄養量を確保するといった基本的なことを理解してもらうことを目的として行いましたが、次回以降は競技特性についても考慮して行う予定です。

尚志祭展示会バザー開催

6月19・20日、学生生活の一一大イベント「尚志祭」が行われました。中等部は授業で作った作品の展示、高校1年生は装飾づくりなどの大事な裏方作業、2年生は個性的な展示発表をしました。3年生は模擬店を出し、どれもおいしいものばかりで大好評でした。3年生を筆頭にダンスや歌などで全員の心を惹きつけた「舞台橋」は、尚志祭をいつそう盛り上げてくれました。



昨年より休日開催となり大盛況の屋外露店会場

「来年は私たちがみんなで盛り上がるような尚志祭をつくっていきたい」と、2年生たちは今から張り切っています。(報道同好会)

芸術祭

第31回 保育科夏期ゼミナール開かれ

常葉中・高

常葉短大



シンポジウムの様子

常葉3大行事の一つ芸術祭が市民文化会館中ホールにて9月15日に行われました。文化部の生徒にとって日頃の練習の成果を発揮する場であり、他の生徒にとっては鑑賞する場としてお互いが一体となって作り上げる芸術祭。今年も心に響く演技、音色、歌声、パフォーマンスが舞台上で繰り広げられ、誰もがその美しさ、迫力に魅了され胸を熱くしていました。

8月8日(日)に、グランシップ「風」ホールにて、常葉学園短期大学保育科恒例の夏期ゼミナールが開催されました。今回は、「子どもと“もの”との出会いを考えるー子どもが育つ環境とはー」をテーマに、基調講演には保育研究家の津守房江氏をお招きし、午後にはその講演を受けて戸田雅美氏(東京家政大学)と池上理恵氏(静岡自然を学ぶ会)に本学教員永倉が加わり、シンポジウムが行われました。県下から参加した198人の保育者の熱気あふれる研修会となり、実り多い一日になりました。参加者の感想の中には、毎年この会を楽しみにしているとの声も多く、期待に応えてますます良い会をしていくこうという思いを新たにしました。

—幼・小の連携を深める—

第12回 常葉学園幼小研修会

とこは幼稚園・たちばな幼稚園・附属橘小学校



服部祥子先生



研修会の開会



発表会の様子

『子どもの良さ』を見つけだすには、ひとりひとりをよく見て把握し、努力した所や、良い所を見つけて褒めることで自信をつけていくことが大切という意見が多く出されました。また、友だち同士の関わりの中で、それぞれの良さや、時には、弱さも受け入れ、共に認めてあげることも大切であるという意見が多く出されました。双方との共通理解をすることが出来、今後の指導に役立つ貴重な意見交換を行うことが出来ました。

研修Ⅰに引き続き行われた研修Ⅱでは、「子どもが育つみちすじ—生きる火種のとうとさ」と題し、服部祥子先生（大阪人間科学大学名誉教授・精神科医）より講演をいただきました。講演会では主に「生きる力を構成するもの」・「人間の発達過程」の2つについて、具体的

研修Ⅰでは、全教員が8グループに分かれ、『子どもの良さ』を見つけ出すための事例検討会が行われ、どの会場でも真剣な議論が繰り広げられました。話し合いの中で、集団との係わりの大切さ、友達から認められる場の設定の必要性、自分の存在価値に気づかせることの重要さなど、さまざまな角度から園児・児童の成長を支援するための具体的な手立てが話し合われ、充実した研修Ⅰとなりました。

「系列幼稚園・小学校の連携を深め、教職員としての教育力を伸ばす」こと

らためて、私自身の心の火種を掘り起された気がする。先生方も、各園の現場で、是非、実践に役立ってもらいたい。本研修を通して、一つでもやつてみようと思えたならば、有意義な会であり、会は大成功であつたと思うなど、熱のこもつたご指導・激励の言葉をいただきました。

閉会式では、土屋義人先生（常葉学園本部指導主事）より、「子どものよさを見つけること。私たちの心の持ち方で教育効果は相當上がる。子どもになにかをしてあげるのでなく、先生が子どもと一体となって、子どもの心と体を成長させることを忘れないでほしい。また、服部祥子先生の講演を聴き、あ

「生きる力」を構成するものは、孤独に耐えてひとりで生きていく「自立心」と、人とのかかわりの中で生きていく「互存力」の2つが挙げられること。そして人間の発達過程によって、親や大人は子どもに対し閑わり方を変えていくことなど、服部先生の実際の子育て経験に基づいてお話ししていくことをしました。2時間の講演時間があつたという間で、幼・小の職員だけでなく、講演会に参加した保護者にとっても子育ての手立てとなりました。将来子どもたちの自立のときに子どもがしっかりと土地に足をつけて生きていけるよう、先を見据えて子育てをしていくことの大

事例検討会の光景



常葉
短大**授業体験バスツアー**

日本語日本文学科では高校生を対象に「授業体験バスツアー “歌と言葉とタカラヅカ”」を7月18日(日)に行いました。参加したのは高校生20名とサポート役の短大生。目的地は東京宝塚劇場。演目「トラファルガー」を鑑賞することが高校生の関心を惹いたようですが、バス内での授業も印象に残ったことと思います。往路は演劇や芸能を素材とした「宝塚歌劇を楽しむ」、そして言語心理学を踏まえた「ひとつの絵から物語を創る」の2つの授業が行われ、復路では「連句への誘い」として、高校生と短大生が一緒になって連句を楽しみ、文芸の世界を体験しました。今年で3回目の企画。サポート学生にも高校の時に参加した経験者が入り、和気あいあいの1日となりました。



▲ 東京宝塚劇場にて

医療専

柔道昇段審査!

柔道整復学科3年生14名が「初段昇段審査」を受けました。入学した当時は柔道経験のなかった学生達も少しでも技を上達しようと練習に取り組みました。当日は、審査員を前に緊張気味の学生もいましたが、練習の成果を発揮した結果、全員が初段(黒帯)に昇段しました。

浜松大学心身マネジメント学科では、日頃から、アスレティックトレーナー養成のための様々な講義・実習をおこなっています。このたび、掛川サッカー協会からの要請を受け、心身マネジメント学科4年、鎌田健一さんが、掛川、高校選抜チームのトレーナーとして、8月17~20日の4日間、韓国遠征に同行し、選手のサポートにあたりました。



▲サポートにあたった鎌田さん

常葉
リハ病院**収穫野菜で調理訓練**

作業療法では病気や障害によって生じた生活の困難さ、つらさを軽減するために様々な作業を行います。これはその場面の一つ、調理訓練の様子です。今回は病院の畑で収穫したきゅうりを使って「サラダ」を作りました。みんなでおいしく頂き、ご本人も「料理ができる」と自信もついた様子。調理は大成功でした！



▲調理訓練の一コマ



▲見事に全員が初段獲得

富士大

東京消防庁・警視庁 視察訓練研修

8月6日、社会環境学部において防災を学び、消防士や警察官を目指している学生20名(うち2名が女子)が、重川希志依教授(内閣府中央防災会議委員・元消防審議会委員)の引率のもと、あこがれの東京消防庁・警視庁の視察研修に行きました。警視庁では、神田署の丸山署長から警察の仕事・警視庁を組織などについて講話をいただきました。その後、東京消防庁京橋署に移動し、田中署長より消防庁や消防の仕事について、熱心な説明をいただきました。その後施設内の見学や説明、AEDの操作方法や心肺蘇生の訓練の後、さらに場所を東京フォーラムの隣地の訓練場に移し、40メートルのはしご車の搭乗、放水訓練、消防装備、レスキュー装備の操作訓練などを行いました。

あこがれの「東京消防庁」のヘルメットや防火服を着て訓練する学生たちはいつにも増して輝いていました。

東京消防庁の隊員に
レスキュー装備の操作説明を受ける学生常葉
中・高**オーストラリア語学研修**

8月6日～8月20日まで常葉学園中高合同海外研修のため、オーストラリアに行ってきました。ホームステイや学校交流を通して日常生活で英語学習を体験したり、異なる文化や自然に触れることで国際性を養いました。すべてがはじめての体験で最初は戸惑いながらも積極的に交流し有意義な研修ができました。



▲現地の友達と

常葉大 静岡中央警察署より感謝状

8月27日、静岡県中央警察署長から角替学長に感謝状が贈られました。これは、同署管内における安心安心まちづくり推進活動において、本学の学生が少年警察協助員(少年補導活動)ボランティアとしての参加やイージス講座(性犯罪被害防止講座)の実施を通じて、若い世代の防犯意識の向上に指導的な役割を果たすことともに人材育成にも貢献したことが高く評価されたものです。



▲学長へ静岡中央警察署長より感謝状



▲スーパー土だんご博士
小田切教授.

8月8日、第33回父親・母親研修ゼミが、常葉学園大学と研修センターを会場に開催されました。今年のテーマは「心を磨く」。午前中の研修Ⅰでは、オリンピックで2大会連続してメダルを獲得したマラソンランナーの有森裕子さんが「思いつければ、夢はかなう！」をテーマに講演。一般人に比べても運動適性が劣っていた自分がどのようにしてメダルを獲得するまでに至ったのか、その足跡について時折ユーモアを交えながら語り、会場を大いに沸かせてくれました。

昼食と座禅をはさんで、午後から行われた研修Ⅱでは、

小田切真常葉学園大



▲夢中で土だんご作り

菊川中・高

浅田侑嗣くん全国高校総体3位

8月1日に沖縄県総合運動公園陸上競技場で行われた全国高校総体男子やり投競技で、本校の浅田侑嗣くん(3年)が64m67で3位入賞しました。浅田くんは「県大会、東海大会は多くの方々の声かけ、会場の手拍子に背中を強く押され、最高の投てきができ、大会新記録で優勝することが出来ました。初めての全国大会の舞台では緊張やプレッシャーが大きく、思い通りの投てきが出来ず、悔しい思いをしました。しかし、日本一になるチャンスはまだあります。国体では皆様の期待に応えられるよう全力でがんばっていきたいと思いますので応援宜しくお願いします」と語っていました。



▲3位入賞 浅田侑嗣君

富士大 日本学生選手権飛込競技大会男子団体3位

9月4日・5日の両日、大阪において開催された日本学生選手権飛込競技大会において、萩田拓馬さん(環境防災2年)が飛板飛込8位、大久保貴明さん(社会環境2年)が高飛込7位、中原敬二さん(社会環境1年)が6位とそれぞれ入賞を果たしました。また、3選手の活躍により男子団体でも3位入賞を果たすことができました。



▲入賞した選手(左から中原さん、萩田さん、大久保さん)

日経エデュケーションチャレンジ講師特別賞受賞

7月29日、自らの将来の意識を醸成することを目的として東京都で開催された「日経エデュケーションチャレンジ事業」(日本経済新聞社主催)に参加した14HRの杉田賢君が、講師特別賞を獲得しました。この催しは、企業の第一線で働く講師陣の授業を受講し、それに対するレポートを提出するもの、「これからのイノベーション」と題した杉田君の作品が350人の参加者の中から見事賞に輝いたものです。



▲特別賞の杉田賢君

静岡リハ専

海外研修 (H22.8.22.~8.27)

スポーツ医学最先端のアメリカ合衆国で3年生24名が海外研修に行きました。ロサンゼルス市内の病院見学や大学でのスポーツリハビリテーション研修プログラムを履修するなど、自分の将来像の構築に対する良い経験になりました。



セリトスカレッジにて

医療専

BBQ大会

8月26日に本校駐車場で学友会主催のバーベキュー大会が開催され、残暑の中、医療専と浜松大学保健医療学部の学生80人が参加しました。

バーベキューの他にも、bingo大会、PK対決、花火など多くのイベントで盛り上りました。普段は交流の無い専門学生と大学生ですが、情報交換できる良い機会になったようです。また、4年生はII期臨床実習の直前でしたが、リラックスした様子でよい息抜きとなりました。



バーベキューに舌づつみ ▲

防災訓練 (H22.9.1)

9月1日(水)の防災の日に、本校では恒例の防災訓練を行いました。全校生と教職員が一斉に鷹匠公園まで避難をしました。新学期開始早々ということもあって、緊張感を持って臨むことができたと思います。

いつ起こるかわからない災害に備え、こうした訓練を続けることにより、災害に対する意識を高めること重要性を改めて認識しました。



鷹匠公園にて ▲



遠鉄百貨店にて ▲

遠鉄百貨店にて絵本の読み聞かせ-こども健康学科

浜松大

8月4日~17日、遠鉄百貨店で「アンパンマンとやなせたかし展」が開かれ、そのなかの特別イベントとして、こども健康学科の学生9名が「アンパンマン絵本の読み聞かせ」を担当しました。

読み聞かせの前にはアンパンマンの手遊びやクイズなどを披露し、訪れた親子を楽しませていました。

常葉
短大

「中庭モニュメント時計除幕式」

短期大学では、中庭のモニュメント時計をリニューアルしました。初代のモニュメント時計が設置以来30年余経過し、劣化が目立ち始めたためこのたびの改築となりました。晴天に恵まれた7月6日(火)の夏休みに学長と学生会会长が代表で除幕しました。多くの学生・教職員にお披露目されたモニュメント時計の前で学生会会长の黒田さんは、「皆さん、これからはこの時計を見て授業に遅れないようにしましょう。」とユーモアたっぷりに挨拶し、和やかな雰囲気に包まれた除幕式は無事に終了いたしました。今後は各科のシンボルマークをあしらったこのモニュメント時計が、学生の楽しいキャンパスライフの時を刻むことでしょう。

青空に映える
モニュメント▲

専門学校スポーツ大会

静岡
リハ専

8月の夏休み期間中に専門学校スポーツ大会が開催され、本校の野球部・サッカー部が出場しました。日頃の練習成果を発揮しましたが、野球部は予選敗退、サッカー部は4位といずれも十分とは言えない結果に終わりました。来年は優勝を目指して頑張ってもらいたいものです。



試合風景

どこは
保育サービス
センター

ソレ！ソレ！おまつりだ

8月20日、みんなが楽しみにしていた夏まつりを行いました。子どもたちは浴衣や仁平を着て、大事なチケットを入れたアイス型の入れ物をさげて、ニコニコ顔でご家族とやって来てくれました。

色々なお店で買い物を楽しんだ後、盆踊り「元気音頭」も家族みんなで一緒に躍って笑顔いっぱいでした。

この日のためにうちわを絵の具や折り紙で作ったり、ビーズや紙粘土でネックレスを作ったりと、先生方の手作り作品も好評でした。

お楽しみは保護者の方によるピアノとオカリナのミニコンサート！素敵な音色にうっとりしました。アンコールではそれいけアンパンマンを聞いたり、大合唱したり、大満足の1日でした。



常葉大

『学校現場の風を受けて』

教職大学院が一番大切にしていることは、学校というフィールドです。「理論と実践の融合」というテーマも、そうした考え方の上に成り立っています。今年度、8月7日に行われた「修了生と語る会」には、36名の皆さんに集まっていただき、在校生・教職員とともに「教育とは」ということについて大いに語り合いました。懐かしさはもちろんですが、スクールリーダーとして、より高いものを身につけた修了生の皆さんから語られる学校の様子は、教育の本質を見据えた貴重な情報となりました。初めて教壇に立つストレートマスターからも、現職の修了生からも、「学校のあり方」といった一段と高い視点での話が聞かれ、大学と学校とのネットワークの重要性が再確認される会となりました。

▲修了生と語る会の
発表風景

医療専

専門学校野球スポーツ大会

静岡

8月16日から20日まで、全国専門学校軟式野球選手権大会静岡県大会が開催されました。今年は本校最後の大会。なんとか予選突破を！と健闘しましたが惜しくも敗れてしまいました。今後は新たな場面で活躍する彼らに大いに期待しています。



中学校体操競技平均台

中3 中野結香さん 平均台全国5位

全国中学校体操競技平均台にて、3年の中野結香さんが5位に入賞しました。毎日の厳しい練習を乗り越え自分自身との闘いに打ち克ってきた成果を出し切りました。また、全日本ジュニア体操競技選手権大会でも優勝を果たし、韓国遠征にも参加する予定です。時には涙しながらも立ちはだかる壁に挑戦し続けている結香さん。更なる成長を願っています。

常葉
中・高

いつもの練習場▲

どこは
幼

わあー！
きれいなお魚が
いっぱい!!♪

たちばな
幼